

菊地敏紀

〔民主クラブ〕

ワイン事業の現状と将来展望

**問** ぶどう耕作者戸数・面積の推移、新規耕作者の育成は。

**答** 日25年は27戸、47.1haと栽培農家の高齢化、担い手不足から戸数、面積ともに減少している。原料確保は最重要課題であり、支援事業の改正を行い植栽しやすい環境を整え、若手生産者の意欲を高める目的でセミナーや個別訪問を実施している。

**問** 原料ぶどうの品質向上対策及び指導体制は。

**答** 原料ぶどうは、補完作物として栽培され、生産者によって品質、収量に差が出ている。担当職員を配置し、状況は各農家へ随時ファックスで情報提供を行っている。

**問** 種苗センターの活用は。

**答** 新たな品種の可能性を探ると共に、原料確保のために優良挿し木苗の生産、高収量、高糖度のための栽培技術を習得し農家に普及している。そのために



富良野市種苗センター

は専門知識、技術を習得するために長期的な事業経営の視点に立った人材育成が必要と考える。

**問** ワイン事業の将来展望は。

**答** 富良野ワインは、特産品として安全で高品質製品づくりを進めてきた。農業経済振興においては、農業の6次化、富良野ブランドの先駆者として、観光振興の中核的施設として順調に推移してきた。日23年将来の方向性を検討するため、監査法人による経営分析を実施している。ワイン事業は畑作振興、市を代表する特産品として、雇用の確保、地域経済の活性化に寄与していることから、今後とも安定的な原料確保を図り品質向上を進め30万本体制を維持していく。

総務文教委員会

■調査第1号「地域コミュニティの現状把握と課題について」

第2回定例会に許可を得ました「地域コミュニティの現状把握と課題について」の調査経過について報告をいたします。

本委員会では、防災・防犯の視点からも地域住民が互いに助け合う交流が必要と考え、主にコミュニティ活動推進員の活動実態と、コミュニティ活動推進状況の2点について着目し、現状把握に努めました。

まず、コミュニティ活動推進員の活動実態については、現在ある32連合会に対し、コミュニティ活動の助長及び地域の振興を図る目的で、市職員がコ

り明確にすることや、コミュニティ活動推進員同士の情報交換の場を確保するなど、職員が地域に入って活動しやすい体制を整えることが必要と課題を認識したところです。

2点目の、地域コミュニティ活動推進状況については、各連合町内会の活動内容と行事への住民参加状況をはじめ、町内会加入に関して転入者及び市内転居者への加入案内の流れなどについて調査を進めました。現在、住民基本台帳世帯数を基に割り出した本市の町内会加入率は約85%であり、本市ばかりでなく、近年は全国的に低下している状況にあります。

これには、個人の価値観の違いもさることながら、個人情報取り扱いに関する課題が大きく影響していることを認識したところです。

本委員会では、町内会活動は、最も身近な住民自治の機関と捉え、レクリエーションなどの交流を通じて互いの親睦の輪を広げ、地域のルールを守り、安心して暮らすことのできる地域を住民自らがつくる、活気溢れる

委員会の動き

コミュニティ活動推進員として配置されています。その存在は、連合町内会長会議などを通じ徐々に知られてきていますが、地域と連携する機能を十分発揮するため、要綱や規定を見直し活動内容をよ